

国立大学法人兵庫教育大学

# 学 報



第270号

平成17年 1月

題字 梶田叡一学長



教育実践学フォーラム2004（第3回）

## 目 次

理事・副学長就任にあたって.....2	・大学院連合学校教育学研究科代議委員会
副学長就任にあたって.....3	・連合学校教育学研究科学生研究発表会
教員就職率全国第1位.....4	・サイエンス・パートナーシップ・プログラム
学 事 .....5	事業（SPP事業）「理科教員のための組換えDNA実験講座」
・平成17年度大学院学校教育研究科修士課程	・教育実践学フォーラム2004（第3回）
[後期選抜]合格者状況等	・平成16年度交通安全講習会
・奨学寄附金	・附属中学校総合学習発表会
人 事 .....6	・第50回義士奉賛加東郡中学校駅伝競走大会
・人事異動	・外国人留学生実地見学旅行
諸 報 .....7	・学生表彰
・役員会	主要日誌 .....10
・教育研究評議会	
・教授会	
・大学院学校教育研究科委員会	

- 理事・副学長就任にあたって -



勝 野 眞 吾

昨年12月1日付けで梶田学長から兵庫教育大学の理事・副学長の辞令を受けました。大任をいただき、身の引きしめる思いで仕事を始めました。

私は平成元年に本学に赴任しましたから、今年で17年目を迎えます。私のバックグラウンドは薬学、社会医学・疫学です。学校教育の分野は初めての経験でした。幸いなことに疾病の一次予防という視点から健康教育の研究を始めていましたので、基礎的な疫学研究と学校をベースにした健康教育を違和感なく融合して仕事を進めることができ、今日に至っています。結果としてある程度、梶田学長が言われるダブルメジャーを持つことができたと考えています。兵庫教育大学は私の可能性を拓いてくれました。

兵庫教育大学は、わが国の、さらには世界の学校教育をリードする大学になりうる魅力にあふれた大学です。我々の大学は大きな可能性を秘めた大学です。この思いは私が本学の生活健康系教育講座に赴任して以来変わらなくあったばかりでなく、学校教育に関わって仕事を進めれば進めるほど確かなものになっています。私は常に「兵庫教育大学」のブランドを身につけて仕事をしていると意識してきました。「兵庫教育大学」ブランドは私の誇りです。

もちろん現実には厳しく、兵庫教育大学の現状、実績に対する世間の評価は甘くありません。むしろ厳しいと言った方が正確です。これには20数年前、新構想教育大学としてスタートした本学への期待の大きさが反映しています。期待の大きい分、はっきりした形での実績が求められます。教員養成の新しい仕組みとして登場してきた専門職大学院についての議論のなかで、「新構想教育大学の失敗」などの発言が飛び出すのはそのためです。また、他に先駆けて大学院博士課程を持ったことへのやっかみも本学への厳しい評価の背景にあると思います。このような学外からの厳しい評価に加えて、本学は内部的にもいろいろな意味での危機を抱えています。国立大学法人化の荒波のなかで、本学は継続した運営交付金の減少という危機に直面しています。また、大学の教員構成が硬直化し、ニーズに柔軟な対応ができなくなっており、附属校園の定員が満たされないという状態も慢性化しています。しかし、厳しい外部からの評価はそれに耐え、それを乗り越える作業を

通じて我々の大学の足腰を強くします。また、危機は新しい可能性を孕む転機でもあります。

私はメリットとデメリットは表裏一体のものだと考えています。兵庫教育大学の社というロケーション、教職員総数約300という小さな規模、学校教育という専門性の不確かさ、これらは本学のデメリットとして語られることが多いようです。しかし、本学の中央から距離を置いた立地は、表層的な社会の動きに惑わされずじっくり物事を考える事を可能にします。本学の小さな規模は構成員相互の緊密な連携を可能にし、小回りのきく機敏な動きを可能にします。学校教育の専門性の不確かさは、そこに未開の豊かな学際的学問領域があることを意味します。

変革は中央ではなく、地方の、そして最初は小さな、不確かな形で始まることを歴史は教えています。我々の兵庫教育大学は、まさにそのような条件を備えた大学であると思います。本学のデメリットをメリットとするのは大学を構成する我々の「志気」です。私が今、何よりも危険だと考えるのは兵庫教育大学の「志気」の低下です。

米国第35代大統領J・F・ケネディの就任演説の中に次の有名な一節があります。

**And so my fellow Americans: ask not what your country can do for you - ask what you can do for your country.**

**My fellow citizens of the world: ask not what America will do for you, but what together we can do for the freedom of man.**

兵庫教育大学の構成員である私たち教職員、院生、学生が、兵庫教育大学が自分たちのために何をできるかを問うのでなく、私たちひとりひとりが兵庫教育大学のために何をなし得るかを問おうという姿勢に立ち、そして我が国の学校教育、さらには世界の学校教育のために何ができるかをともに考え、それを形に現し、社から新しい学校教育のあり方を発信する時、人は兵庫教育大学を梶田学長の言われる「教育界のメッカ」と呼ぶと思います。

そのような「志気」に満ちた、自由で、活気のある兵庫教育大学への環境づくりに微力ですが、全力を注ぎたいと考えています。よろしくお願いいたします。

- 副学長就任にあたって -



川 本 幸 彦

本年1月4日、梶田学長から兵庫教育大学の副学長に採用する辞令を頂きました。昨年3月末に本学事務局長職を去って以来9ヶ月振りに社キャンパスに戻って参りました。

これまで経験した事務局長職と異なり、副学長という立場で大学全体の「企画戦略」を担当することになり身の引き締まる思いを強くしております。

昨年12月に本学へ戻ることが正式に決まった時に、私の心の中では「大きな不安」と「小さな期待」が交錯しておりました。

まず「大きな不安」とは、申すまでもなく副学長というこれまで経験したことのない未知の世界に入っていくことです。これまで幾つかの大学と一緒に仕事をさせていただいた幾人かの副学長のことを、特に濱名先生、佐藤先生のお二人の前副学長の仕事振りを思い浮かべながら、自らどのような気持で仕事をすればよいのか自問自答を繰り返してきました。この自問自答と「大きな不安」は暫く続くことと思います。

次に「小さな期待」とは、昨年4月から国立大学が法人化され、本学の制度設計に私が事務局長として2ヶ年にわたり携わりましたがその検証が出来ることです。法人化の準備は、学長を委員長とする法人化準備委員会の下に「理念・目標部会」、「組織業務・人事制度部会」、「教育内容部会」、「財務・会計制度部会」の4つの部会を設け、全学をあげた議論を重ね、10回にも及び全学説明会を実施したことは皆様御承知のことです。

文部科学省の示した調査検討会議の最終報告や、その後成立した国立大学法人法の枠内ではありましたが、大学自らが自主性、自律性をもって検討をしたと確信しています。また、このことは、法人化に向けた教職員の意識改革にも大いに寄与したものとされます。

このように自ら関わった制度設計の検証を行うことなく昨年3月に本学を去ることになり大変残念に思う気持と共に、心の片隅であの仕組はうまく機能しているのかどうか絶えず気になっておりましたが、今回思いがけず本学に戻ることとなり自ら検証をする機会が与えられました。

制度や組織は「生きもの」であり、絶えず時代や社会に即応しながら変革することが必要ですが、多くの議論の末に創られた制度がどのように機能しているの

か、またどこを見落していたのかなど自らの目で確かめられるという「小さな期待」をもっています。

国立大学の法人化の課題については、従前より予想されていたことですが、法人化後における大学の将来像をどのように描けばいいのかの問題があることです。法人化により、国立大学であることを維持しつつ、国の組織、制度を離れ大学運営は大学自身の手任せられ、一つの経営体として維持発展させなければならないこととなりました。

しかし、それを行う際の最も重要なものの一つとして、財源をどのように確保するかということが挙げられます。法人化後の各大学においては、運営費交付金や授業料等の既定の財源以外に外部資金を獲得するためいろいろな取組みを行っていることがマスコミ等で報道されておりますが、本学のような教員の養成・研修を目的としている大学では、外部資金の確保には限度があります。

この際本学では、原点に立ち返って学生に如何に魅力ある大学にするか、学校現場を中心とする社会から如何に評価される人材を育てるかに最大限の力を注ぎ、正しい評価を受けて国からの競争的資金を獲得することが財源確保の一番の近道だと考えます。またこのことが梶田学長の唱える「兵教ルネッサンス」につながるものと思います。

その具体に取り組みなければならないもの一つとして、昨年10月に文部科学大臣から中央教育審議会に諮問された教員養成における専門職大学院の在り方があります。本学においても創立25周年記念シンポジウムにおいて、この課題を取り上げ実現に向けて学内で議論をしてきておりますが、中教審の審議をみつつ、もう一度原点に立ち返った検討が必要だと思います。

法人化後の第一期計画期間においては、各大学とも将来に向けて安定的な運営ができるよう基盤の確立に力を注ぐことになると思います。本学においても、この重要な時期に梶田学長を中心に私達教職員一同が自ら持っている知恵を十分に出し合い、「兵教ルネッサンス」の実現に向けて最大限の努力が必要だと思います。私も教職員の努力が報われるよう頑張りたいと思いますので、皆様の御支援と御協力をよろしくお願い致します。

## - 教員就職率全国第1位 -

文部科学省は、平成16年12月13日に国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）の平成16年3月卒業者について、平成16年9月末現在までの就職状況を公表した。これによると、臨時講師など期限付きを含む教員就職者は5,606人で、卒業者に占める割合は55.5%となった。教員就職率は5年連続の上昇となり、約10年前の水準まで回復した。

本学の教員就職率は、昨年度より4.3%アップの74.2%に上昇し、全国第1位となった。（昨年度は、69.9%で全国第2位）

正規教員就職率は30.8%（前年度比0.2%アップ）。今後は正規教員就職率の一層の向上と、全国規模へ教員就職を広げることが課題となっている。

就職相談室では、引き続き各種の就職セミナーや対策講座等を企画・実施すると共に、教員採用試験の複数受験の推進等、教員就職率の一層の向上を図っていくものである。

### 新規卒業者の教員就職率の高い大学ランキング

第1位	兵庫教育大学	74.2%
第2位	和歌山大学	70.3%
第3位	愛知教育大学	67.9%
第4位	信州大学	64.9%
第5位	京都教育大学	63.6%

### 本学の平成16年3月卒業者の就職状況

区 分	就 職 者				進学者 及び その他	計 (卒業者)
	教 員 就職者	左 の 内 訳		その他 就職者		
		正 規	期限付等			
本学の平成16 年3月卒業者	人 118 (74.2%)	人 49 (30.8%)	人 69 (43.4%)	人 16 (10.1%)	人 25 (15.7%)	人 159 (100%)

(注) 1 平成16年9月末までの状況を取りまとめたものである。

2 国公私立の小，中，高等，特殊教育諸学校，幼稚園の教員就職者数である。

3 ( ) は、卒業者に対する割合(%)である。

## - 学 事 -

平成17年度大学院学校教育研究科修士課程〔後期選抜〕合格者状況等

平成17年度大学院入学者選抜試験〔後期選抜〕を11月13(土)に実施し、12月3日(金)に合格者を発表した。

なお、合格者数等は次のとおりである。

### 1 専攻・コース別合格者数等

専 攻 ・ コ ー ス		募集人員	応募者数	受験者数	合格者数
学校教育専攻	教育コミュニケーションコース (昼間クラス)	3人	3人	2人	3(1)人
	(夜間クラス)	若干人			
	スクールリーダーコース (昼間クラス)	2人	2(2)人	2(2)人	2(2)人
	(夜間クラス)	若干人	2人	2人	1人
	教育内容・方法開発コース (昼間クラス)	2人	3人	3人	3人
	(夜間クラス)	若干人	1(1)人	1(1)人	2(2)人
	生徒指導実践コース (昼間クラス)	2人	1人	1人	1人
	(夜間クラス)	若干人	4(3)人	4(3)人	4(3)人
幼年教育コース (昼間クラス)	5人	3人	3人	3人	
(夜間クラス)	若干人	4(2)人	4(2)人	6(2)人	
学校心理コース (昼間クラス)	若干人	8(1)人	8(1)人	4人	
(夜間クラス)	10人	2(2)人	2(2)人	6(5)人	
教育臨床心理コース (夜間クラス)	15人	62(18)人	58(16)人	16(5)人	
障害児教育専攻		5人	5人	3人	4人
教科・領域 教育専攻	言語系コース (昼間クラス)	10人	6人	6人	6人
	(夜間クラス)	若干人	2人	2人	2人
	社会系コース (昼間クラス)	5人	5人	5人	5人
	(夜間クラス)	若干人	3(2)人	3(2)人	3(2)人
	自然系コース (昼間クラス)	5人	8人	6人	6人
	(夜間クラス)	若干人	1(1)人	1(1)人	1(1)人
	芸術系コース (昼間クラス)	5人	6人	6人	6人
	(夜間クラス)	若干人			
生活・健康系コース (昼間クラス)	10人	6人	6人	5人	
(夜間クラス)	若干人	5(2)人	5(2)人	5(2)人	
総合学習系コース (昼間クラス)	10人	2人	2人	3人	
(夜間クラス)	10人				
合 計		99人	144(34)人	135(32)人	97(25)人

(注) 1. 応募者数及び受験者数は、第1志望によるものを示す。

2. ( )内の数は、3年以上の教職経験を有する現職教員(同意書なしを含む)を内数で示す。

3. 印を付した合格者数には、第2志望によるものを含む。

### 2 3年以上の教職経験を有する現職教員(同意書なしを含む)の合格者の所属学校種別内訳

計 (人)	内 訳 (人)					
	小学校	中学校	高等学校	特殊教育諸学校	幼稚園	他
25	8	2	7	4	2	2

### 3 3年以上の教職経験を有する現職教員(同意書なしを含む)の合格者の教職経験年数別内訳

計 (人)	内 訳 (人)		
	3年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上
25	3	11	11

## 奨学寄附金

寄附申込者	研究担当者	寄附の目的	金額(円)
ポリプラスチックス株式会社	生活・健康系教育講座 教授 福田光完	福田光完教授に対する教育・学術研究助成	500,000
ロート製薬株式会社	発達心理臨床研究センター 教授 市井雅哉	市井雅哉教授に対する研究助成	1,000,000
兵庫教育大学附属中学校 教育後援会		兵庫教育大学附属中学校の教育研究の振興・充実等のため	841,600

## - 人 事 -

## 人事異動

## (役員等)

年月日	発令事項	新職名等	氏名	旧職名等
16.12.15	命	学長特別顧問	小川 武範	任期 16.12.15～17.12.14
17.1.1	採用	副学長	川本 幸彦	任期 17.1.1～19.11.30

## (事務局)

年月日	発令事項	新職名等	氏名	旧職名等
16.12.13	採用	教務部教務課教務企画係 事務補佐員	山本 明美	
16.12.31	退職	神戸大学医学部経営管理課 課長補佐	田中 清志	総務部施設課 企画係長
17.1.1	採用	総務部施設課 企画係長	藤原 洋文	金沢大学施設管理部施設整備課 設備第二係長

- 諸 報 -

国立大学法人兵庫教育大学役員会

第17回 平成16年12月2日(木)

(議題)

- 1 理事・副学長の職務分担について
- 2 学長特別顧問(仮称)の設置について
- 3 兼業について

第18回 平成16年12月15日(水)

(議題)

- 1 大学院学校教育研究科(修士課程)特別支援教育専攻の改革について
- 2 大学院学校教育研究科(修士課程)学生募集人員の変更について

第19回 平成16年12月22日(水)

(議題)

- 1 学則の一部改正について
- 2 学長特別補佐の設置について
- 3 授業料の取扱いについて
- 4 平成18年度概算要求に係るスケジュール等について

国立大学法人兵庫教育大学教育研究評議会

第10回 平成16年12月15日(水)

(議題)

- 1 学則の一部改正について
- 2 経営協議会学外委員の欠員補充について
- 3 教員の選考開始等について
- 4 保留定員制度について
- 5 学長特別顧問(仮称)の設置について
- 6 客員教授制度について
- 7 教育実践研究協力員制度について
- 8 特別支援教育専攻の改革について
- 9 平成17年度大学院学校教育研究科(修士課程)第2次学生募集要項について
- 10 平成16年度卒業式・学位記授与式及び平成17年度入学式の日程について
- 11 平成17年度授業暦について
- 12 谷口教育研究奨励金による平成16年度の顕彰について
- 13 教員の選考について

兵庫教育大学教授会

第8回 平成16年12月15日(水)

(議題)

- 1 教員候補者についての意見の取りまとめについて
- 2 教員選考委員会の設置について
- 3 学校教育学部履修規程の一部改正について
- 4 平成17年度学校教育学部授業科目の新設改廃等について
- 5 学校教育学部授業科目の履修方法及び標準履修年次の変更について
- 6 平成17年度学校教育学部開設授業科目等について

兵庫教育大学大学院学校教育研究科委員会

第9回 平成16年12月15日(水)

(議題)

- 1 平成17年度大学院学校教育研究科(修士課程)第2次学生募集要項について
- 2 平成16年度論文審査委員会委員候補予定者について
- 3 研究科担当の認定について
- 4 平成16年度授業科目担当教員の変更等について
- 5 平成17年度授業科目の新設改廃等について
- 6 研究科担当判定委員会の設置について
- 7 外国人研究生の入学について

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科代議委員会

第7回 平成16年12月1日(水)

(議題)

- 1 論文提出による博士の学位論文審査委員会の設置について
- 2 論文提出による学位論文審査申請に関する申合せの改正について
- 3 平成17年度授業科目担当者の編成について
- 4 博士候補認定試験の実施について
- 5 平成17年度入学者選抜試験出願資格認定審査について
- 6 論文提出による博士の学位授与申請における連合講座の関与について

#### 連合学校教育学研究科学生研究発表会の実施

12月4日(土)、5日(日)の2日間、神戸市北区にある研修施設、スペースアルファ神戸において、連合学校教育学研究科学生研究発表会が実施された。

この発表会は、研究発表会の場が少ない博士課程の学生に発表の機会を与えると同時に、他分野の教員や学生との研究上の相互交流を図るために本年度初めて企画されたもので、全ての構成大学から2年生を中心とした学生とその主指導教員、副指導教員など計45人が参加した。

2日間で6人の学生が質疑応答を含めた研究発表を行ったほか、2日目には、本研究科の修了生である大阪学院大学助教授の松本剛氏による講演会や、主指導教員、副指導教員による研究指導検討会も併せて開催され、各参加者は様々な刺激を受けたり、情報を得たりすることができ、非常に有意義なものとなった。



#### サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業 (SPP事業)「理科教員のための組換えDNA実験講座」の実施

12月9日(木)、10日(金)の2日間にわたり、「理科教員のための組換えDNA実験講座」をテーマに同事業(教員研修講座)が本学で実施され、県内の高等学校教員15人が参加した。

今回の教員研修は、兵庫県高等学校教育研究会生物部会との連携による実験研究会として実施され、自然系教育講座の渥美教授及び笠原助教授による「大腸菌の形質転換」、「形質転換の原理」、「プラスミドDNAの抽出」等の実験や講義を通して、安全

な組換え実験の方法について理解を深めた。

なお、最終日には参加者全員に修了証が授与された。



#### 教育実践学フォーラム2004(第3回)を開催

12月18日(土)、大阪中之島のキャンパス・インベーションセンターにおいて、大学院連合学校教育学研究科による、教育実践学フォーラム2004(第3回)が開催された。

今年度は「子どもの心とからだと行動」をメインテーマに年間4回開催を予定しており、今回は、その第3回目としてゲストスピーカーに京都大学の十一元三先生を招き、「広汎性発達障害と現代の青少年問題」をテーマに開催したもので、学校教育学関係研究者、大学院生、学校教員など52人が参加し、広汎性発達障害への対応を中心に、学校・教師、児童精神科医とカウンセラーが担う役割について活発な討論が行われた。

なお、第4回は2月19日(土)に同センターにおいて、「青少年の危険行動とその関連要因」をテーマに開催を予定している。

#### 平成16年度交通安全講習会を開催

12月15日(水)、共通講義棟108教室において平成16年度交通安全講習会が、学生・教職員約110人の参加のもと開催された。

はじめに学生係長から学内での交通ルール、休暇中の交通事故防止について指導が行われた。引き続き、社警察署八木総務係長から本学学生がおこした交通事故の状況等をもとに事故を防止するための心構えや交通マナーについて講話が行われた後、事故防止啓発ビデオの上映があった。

最後に交通ルール、事故防止に関し質疑応答が行われ、講習会は終了した。

### 附属中学校総合学習発表会の開催

12月21日（火）、附属中学校において、平成16年度附属中学校総合学習発表会が開催された。

附属中学校では、平成4年度～平成6年度までの3年間文部省から研究開発学校に指定され、新教科「人間と環境」科のカリキュラムの作成と学習の展開を行ったが、現在は総合学習「人間と環境」として、継続的に取り組んでいる。今年度は、1年「ボランティア」、2年「環境と共生」、3年「文化とコミュニケーション」をテーマに、各学年3グループ、9グループの発表を行った。PCソフトやOHP、模造紙、実物提示、実演など、多種多様な発表方法でプレゼンテーションする生徒たちは、内容もしっかりとしており、発表態度も堂々とした立派なものだった。

まさに、早期から実験的に総合的な学習の時間に取り組んできた本校のよき伝統が受け継がれ、年々発展していく様子が実感できる内容であった。



### 第50回義士奉賛加東郡中学校駅伝競走大会で優勝

12月14日（火）、恒例の第50回義士奉賛加東郡中学校駅伝競走大会が開催され、附属中学校男子Aチーム、女子Aチームが見事優勝を果たした。

当日は、本校からの男・女合わせて6チームを含めた加東郡内の中学校、男子12チーム、女子13チームが参加し、この日に備えて練習した走りを競い合った。序盤から常に1位と2位が入れ替わる接戦となったが、最終アンカーの粘りの力走が勝負を決した。

伝統あるこの競技大会で本校は常勝を誇っているが、男女そろっての優勝は平成12年以来の快挙であり、区間賞はもとより、男子の最優秀選手賞も獲得した。また、女子Aチームはメンバーの全員が1年生で構成されていたことから、来年以降の活躍も期待される。

### 外国人留学生実地見学旅行を実施

12月18日（土）、19日（日）にかけての1泊2日の日程で、留学生と教職員を合わせて32人の参加のもと、外国人留学生実地見学旅行を実施した。

昨年度までは、留学生各人が指導教員の指導のもと計画を立てて実施していたが、今年度より日本の文化、歴史、産業等の見聞を広め、日本をより深く理解する従来の目的に加え、留学生、教職員相互の理解、親睦を深めるため団体で実施した。

1日目は、岡山県の蒜山高原でジンギスカンの昼食の後、島根県の松江城と月照寺を見学した。松江城の見学では、留学生は地元のボランティアガイドの説明に聞き入り、日本の伝統的な建築と宝物に関心を示し、積極的に質問を行う様子が見られた。また、宿泊先の玉造温泉において、一日の疲れを癒し、日本独特の旅の方法を体験した。

2日目は、めのう伝承館でめのうの制作実演を見学した後、出雲大社へ参拝し、厳かな雰囲気の中、参加者全員が特別祈禱を受け、各人が思い思いの願い事を行った。出雲大社参拝の後、名物の出雲そばの昼食を取り、大学への帰路に着いた。

今回の実地見学旅行を通して、留学生が日本文化の伝統が色濃く残る島根県を訪れる事で、大学の講義では学ぶ事の出来ない体験を行い、留学生相互や教職員との親睦を深めるための貴重な機会となった。



### 学生表彰

兵庫教育大学学生表彰規程に基づき、次のとおり表彰を行った。

#### 被表彰者

大学院学校教育研究科  
幼年教育コース 2年 亀山秀郎

#### 表彰理由

「平成16年度善行青少年表彰」(内閣府)を受賞

## - 12月主要日誌 -

月 日	事 項
12月1日(水)	連合学校教育学研究科代議委員会(第7回) ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(第6回) 国際交流委員会留学生専門部会(第7回) 就職セミナー 教職講座
2日(木)	役員会(第17回)
3日(金)	大学院入学者後期選抜試験合格者発表
4日(土)	連合学校教育学研究科学生研究発表会(～5日) 教員採用試験模擬試験
8日(水)	人事委員会(第6回) 大学情報委員会(第4回) 外国人研究生選考委員会 学生委員会(第6回) 日本学生支援機構奨学金返還説明会 教職講座 神奈川県教員採用試験等説明会
9日(木)	S P P事業「理科教員のための組換えDNA実験講座」(～10日)
10日(金)	学部推薦入学願書受付(～17日)
13日(月)	学部入学試験委員会(第5回) 連合大学院入学願書受付(～20日)
14日(火)	附属学校運営委員会(第7回)
15日(水)	役員会(第18回) 教育研究評議会(第10回) 教授会(第8回) 研究科委員会(第9回) 社会連携委員会(第5回) 交通安全講習会 教職講座 岡山県教員採用試験等説明会
16日(木)	学務・入試企画委員会(第6回) 評価委員会作業部会(第7回) 特殊健康診断(第2回) 長崎県教員採用試験等説明会
17日(金)	知的財産管理委員会(第4回)
18日(土)	連合学校教育学研究科教育実践学フォーラム2004(第3回) 外国人留学生実地見学旅行(～19日)
20日(月)	大学院入学試験委員会(第7回) 国際交流委員会(第4回) 附属幼稚園第2学期終業式
21日(火)	教育研究基盤経費配分検討専門委員会(第4回) 附属中学校総合学習発表会
22日(水)	役員会(第19回)

	基本戦略委員会(第8回)
	経営企画委員会(第6回)
	大学広報委員会(第4回)
	附属中学校学校評議員の会(第2回)
24日(金)	学部入学試験委員会(第6回)
	附属小学校・中学校第2学期終業式
27日(月)	教務委員会(第9回)

編集発行 兵庫教育大学総務部庶務課

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

電話 代表(0795)44-1101

http://www.hyogo-u.ac.jp/